

住田町教育振興運動推進協議会

- 「テーマ」
- 震災を超えて・新たな教育課題への取組
組織の見直し・地域コミュニティ再生の取組
 - PDCAサイクルによる推進の取組
年間を通じた全県共通課題・モデルプログラムの取組
 - 地域ぐるみによる「いわての復興教育」の取組
防災教育・被災地支援交流・地域を担う人材育成の取組

活動の様子



『「かっこう花」をさかせよう』

- 「かっ」…家庭学習の花（家庭学習の充実・読書活動の推進）
- 「こ」…声かけの花（あいさつ運動の推進・地域行事への参加）
- 「う」…運動の花（健康づくりの推進）

1 地域の教育課題

- 学力向上・健全育成・体位体力の向上
 - ・基本的生活習慣の形成＝生活リズムの向上
 - ・学力の向上（学力検査結果への対応・新学習指導要領への対応）
 - ・肥満・生活習慣病の予防・改善
 - 学校・地域の安全確保
 - 自然体験・社会体験の不足（地域コミュニティの弱体化）
 - 少子化・都市化・情報化に関連した諸課題（地域コミュニティの弱体化）
- <課題の裏付けデータ>

2 役割分担と年間の計画

- 課題解決のためのそれぞれの役割
 - <子ども>
夢・目標をかなえたい、将来〇〇になりたい
 - <保護者>
自立してほしい、〇〇な子になってほしい
 - <先生>
教育目標をめざして、個々の目標を支援したい
 - <地域>
将来の地域・町・日本の担い手に
 - <行政>
教育目標をめざして、町づくりの目標をめざして
- 課題解決のための年間の取組
 - ・子どもの学力向上・健全育成・健康安全の原点に戻り、基本を大切にする。
 - ・平成23年度の成果を受けて、課題となる部分をさらにしぼって取り組む。
 - ・読書も含めた家庭教育の習慣化や生活習慣病対策（食育教育等）は、県・住田町に共通する具体的課題である。
 - ・少子化だからこそ、声かけやあいさつによる地域住民のつながりを積極的に作り、家庭・地域・学校が一体となった子育て・親育て・地域づくりを目指す。

3 取組の様子

- 実践協議会は、町全体の協議会と、町内5つの地区実践協議会があり、それぞれがテーマに沿った実践活動を行っている。
- 5つの実践協議会に、さらに2つの地区連携推進委員会を設置し、各地区ごとに課題の掘り起し・テーマについて及び5者の役割分担についての協議を行い、それに基づき事業の計画・実践を行っている。
- 実践協議会及び連携推進委員は、地区公民館と保育園・小学校・中学校の職員及びPTA等で構成されている。
- 各地区連携推進実践活動として、あいさつ運動と読書活動の推進や、家庭教育学級合同講演会等を開催している。
- その他関連事業として、町全体で、広報活動（マナビ通信）・家庭教育学級の開設（保小中保護者対象）・放課後子ども教室の開設・高校生ボランティア育成事業（住田高校生の参加：森の保育園・すみたっ子まつり等）・コミュニティスクールの開設・子育て事業・森林環境学習等に取り組んでいる。

4 課題解決を判断する評価の方法

学力の向上については学力調査により、子どもの生活習慣病については体位測定等により、学校と連携し継続的にこれを評価していく。
地域行事や郷土芸能の伝承者が増え、これまでよりも地域が支え合い子どもたちに関わり合う郷土となっているか評価する。